

## 2018年7月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 7月は、「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」としました。3月にワンランク切下げた後、4か月続けて変更なしです。
- 公共投資が災害復旧工事の一巡を主因に減少しているほか、個人消費が依然冴えない動きとなっています。
- もっとも、道北地域の景気が持ち直していることには変わりありません。建設関連では、災害復旧という特需こそ一巡しましたが、工事量は引続き多く、人手不足の中で繁忙な状態が続いています。観光も持ち直しています。この先、道北地域の景気全体が下方トレンドに転じて行くということではないとみています。
- 7月2日に公表した6月短観では、道北地域の業況判断DIは+25と前回調査（3月）比改善しました。この短観の調査結果も、道北地域の景気が引続き良好な状態にあることを示していると思います。

### ■個人消費の動向

- 6月の大型店売上高は、前年を下回りました。これで10か月連続のマイナスです。今年は土日の数が昨年に比べて多かった（昨年8日→本年9日）ので、依然として弱い状況が続いていると判断せざるを得ません。
- 6月の新車登録台数も、前年割れでした。6か月連続のマイナスで、当月は▲9.4%とかなりの減少となりました。除く軽自動車と軽自動車に分けてみますと、除く軽自動車は前年比▲11.5%と2ケタのマイナス、軽自動車は▲4.2%といずれも前年を下回りました。

## ■観光の動向

- 観光は、6月は比較的良好なデータが出ており、引続き持ち直しているとみられています。
- 6月の道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年を上回り、14か月連続の増加となりました。旭川空港は、5月にマイナスとなった国内線が6月は再びプラスとなったほか、国際線が定期便（台湾便）の就航があったことから大幅増加となり、全体でも前年を上回りました。他の空港は、稚内空港と紋別空港が前年を下回りましたが、女満別空港は前年を上回りました。
- ホテル・旅館宿泊者数は、5月に4か月ぶりに前年を下回った後、6月は再び前年を上回りました。また、6月の旭川市内のホテルの客室稼働率は、92.5%と高水準をマークしました（前年と同水準）。
- 各地観光施設の入込みは、利尻礼文フェリー以外は前年を上回りました。
- 観光関連業者の間でも、今夏の当地観光は、低温・雨天の日が多いにもかかわらず、インバウンド客を中心に堅調な入込みとなっているとの声が聞かれています。

## ■公共投資の動向

- 6月の上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負金額は、前年を1割強下回りました。これで6か月連続の前年割れです。年度初来4～6月の累計でも、前年実績を下回っています。昨年度前半に集中した災害復旧工事の発注が一巡し、発注の減少が鮮明になっています。
- もっとも、建設業者の手持ち工事量は引続き多く、人手不足の中で繁忙な状態が続いているようです。

## ■住宅着工

- 5月の新設住宅着工戸数は、持家が前年比プラスだった一方、貸家が大幅マイナスだったため、全体では、前年を下回りました。

## ■住宅以外の建築物

- このところ減少気味の建築物着工床面積（非居住用）も、5月は大幅前年割れとなりました。

## ■農業

- 農業は、上川、オホーツクとも、このところの低温・雨天（日照不足）の影響により、水稻（上川）、てんさい、小麦、玉ねぎ、馬鈴薯（以上オホーツク）などの生育に遅れが見られ始めています。また、旭川市内の農地では、7月初の水害による被害が出ており、収穫への影響が懸念されています。

## ■雇用

- 雇用状況は、引き締まった状況が続いています。5月の有効求人倍率は、旭川、稚内、北見、網走のいずれにおいても1倍を超えました。また、新規求人数も、すべての地区で前年を上回りました。道北の企業は、引続き人手不足の中にあります。

## ■6月短観の結果

- 6月短観では、道北地域の業況判断DIは+25と前回調査（3月：+14）比11ポイント改善しました。食料品、木材・木製品、建設関連、運輸といったところが改善しています。これまで仕入れ価格の上昇に対してなかなか進まなかった自社製商品の価格引上げ（価格転嫁）を実現できた先が見られたこと、（災害復旧工事の発注は一巡したものの）建設業が仕事を抱え引続き繁忙な状況にあること、などによるものと考えられます。
- 一方、2018年度の事業計画では、売上は小幅減少、経常利益は4割弱の減益を見込んでいます。昨年度大幅に増加した設備投資も、現時点では動意がなく、前年度を6割強下回る計画にとどまっています。

## ■今後のポイント

- 道北の景気は、先月と比べてあまり大きな変化はありません。「緩やかな持ち直し」ということで、目に見えてよくなっているという実感はあまりないかもしれませんが、短観結果などをみても、道北企業の景況感はずっと悪くはないのではないかと思います。公共工事の発注が減少している建設業界でも、工事の受注残はまだ多く残っているうえ、新年度予算も災害復旧分が剥落したとはいえ、水準としてはなお高いレベルを維持しているため、足許大きな不安を持っているようには見受けられません。夏場の観光も順調のようです。個人消費に関しては、燃料価格の値上がりなどから、消費者の節約志向が強まっているようですが、一方で小売店間の競争の激しさから、既存店の売上が伸び悩んでいる面も大きいと思います。
- なお、7月の旭川市内の大雨被害の影響に関しては、前述のとおり農作物への影響が心配されますが、災害復旧工事に関しては、2年前の台風とは異なり被害が局所的だったこともあり、昨年のように大きなボリュームにはならないとみられているようです。
- 今後は、①建設業者が良好な景況感を持続するのに十分な工事量を維持できるか、②建築物を含めた民間の設備投資動向、③個人消費の動向（大型店および新車販売）、④夏の本格シーズンを迎えている観光の動向、に着目していきたいと考えています。

以 上